



だより



R5.4.25 Vol.3



参観日前

先日の参観日、ご参観ありがとうございました。子供たちの頑張る姿はいかがでしたか？

さて、その参観日の前日、校内を見回っていると、1年生の子供たちが発表の練習をしていました。「あ！校長先生にちょっと聞いてもらいましょう！」と担任に声をかけてもらい、教室に入り、発表の一部を聞かせてもらいました。

始めは、少し緊張した面持ちの子供もいましたが、私が少し笑ったり、子供の動作を真似たりしていると、その子たちの顔もほころび、笑顔で発表の練習ができていました。

相手の表情を見て、学んでいるんですね。相手が自分たちを受け入れてくれていると感じているのだと思います。

人との関わりの中で、相手の表情がわかるということはやはり大切なことだと私自身も改めて感じたひとときでした。



大人でも、少しうなずきながら話を聞いてもらうと安心しますよね。小さい頃からの経験で、相手の表情を感じるということを学んでいるからではないでしょうか。

ハイタッチ

今年も登校してくる子供たちとハイタッチをしています。新しく班長になった子供たちは、横断歩道では安全を確認し、班員を渡らせた後、停車してくれたドライバーに挨拶をしています。とても気持ちのよい光景です。

また、私を見た1年生の子供たちが「誰だろう？」という顔をしながらタッチしてくる様子もとても可愛いです。そろそろ「あ～校長先生という人かあ」と気付いてくれている頃かと思います。私、決して怪しい者ではございません(笑)

予鈴

次の活動の5分前にチャイムになります。昨年までは、チャイムが鳴った後も、「早く教室に戻りなさい！」なんて注意をする声がよく聞こえていたのですが、今年度は、予鈴と共に整然と行動している子供たちの姿が見られます。小さなことですが、「やるべきをやる」ことへの大きな一歩だと思います。



四方山話令和5年度 ver. 其三(小さなことから…)

今年度、子供たちの学校生活改善事項のひとつとして、「集会時にメモを見ながら司会や挨拶をしない」を挙げています。昨年度はメモを見ながらの進行や挨拶が目立ちました。(後半、改善されてきましたが…)メモを持つておくことは決して悪いことではありません。ただ「メモありき」になるとどうしてもうつむき加減になる、十分な声が出ないということが起こりがちです。相手に何かを伝えようとするとき、しっかり顔をあげる、声を出すということは普段の学習においても大切なことです。

メモが見られないと「忘れたらどうしよう。間違ったらどうしよう。」という不安(ストレス)が子供を襲います。**だからそうならないように努力する。**この過程が子供を大きく成長させます。結果、言い間違えた、忘れてしまったとしても、またチャレンジすればいいだけのことです。**学校とはそういう場所です。**万一、それをいじったり、からかったりする子供がいたら(石城っ子にはいないと思いますよ。)私が断じて許しません。努力は称賛されるべきものです。

一例として、「集会時にメモ…」について述べましたが、小さなことからしっかりと取り組ませていきます。

苦勞せず通ることのできる道の先には、おそらく何も待っていないでしょう。時に迷い、時にころぶかもしれない、そんな道を通っていく先にこそ、充実感、達成感という楽しみが待っているのだと私は思います。